

M 姫のつぶやき (Facebook, 2020.7.23 より加筆修正)

「悪知恵のすすめ」 鹿島茂:著

参加している会で次回から取り組む中世のフランスの寓話「狐物語」が全く分からないので、何か助けになる本がないかなあと図書館で探して見つけた本。

鹿島茂さんは「英雄たちの選択」(NHK)によく出演されるので一方的にお馴染みの方です。

こちらの寓話はラ・フォンテーヌの寓話で 17 世紀頃のもの。12 世紀後半の「狐物語」より随分と後の時代のものです。

でもエッセイで読みやすかったので借りることにしました。

読み始めたらやはりとても面白く、すぐに 2 冊目「悪知恵の逆襲」を借りてきて読みました。

「寓話に学ぶ処世術」という副題がついていますが、それを通り越して、著者の政治に対する考えにとっても共感しました。また、この処世術とはつまり現代のグローバルになってしまったこの世界での諸外国との付き合い方のようなことも書かれてあり、とても興味深いものでした。大多数の性悪説の国と渡り合うためには、我々とは異なるその思考回路を理解しておくことが大事なのだと書いてあり、納得するとともに、大変だな…とも感じるところです。

憎しみの連鎖を断つ方法としての「距離」と反日教育の理由、イソップの「アリとキリギリス」をラ・フォンテーヌはフランス的に書き替えてあるという話、などなど、興味深い話がたくさんありました。人間を突き動かすものは「自己顕示欲」と「自己愛」という点は、政治は全くそうだなあと納得。

この本は民主党政権になった時期に書かれたのだけど、その頃著者が憂いていたこと(日本の政治・外交、そして疫病！)が今起こっており、その先見の明にも感銘を受けました。

著者は日本の行く末をとっても心配しており、ここでは詳しくは書きませんが、まさに今そうなりつつある日本のことを、私もますます心配になります。

その前に、中世のフランスに戻らねば.....